星空プロムナード　暦 惑星 春の星座案内

作花一志（京都情報大学院大学）

春靄，朧月夜，花粉症の季節，土星が見頃ですが他の惑星は明け方の空ですからシーズンオフです。

○ 満月　● 新月

4月　April						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
清明　5	6	7	8	○　9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	穀雨20	21	22	23	24	●　25
26	27	28	29	30		

5月　May						
日	月	火	水	木	金	土
					1	八八夜2
3	4	立夏　5	6	7	8	○　9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	小満21	22	23
●　24	25	26	27	28	29	30
31						

6月　June						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	芒種　5	6
7	○　8	9	10	入梅11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
夏至21	22	●　23	24	25	26	27
28	29	30				

金星

3 月 27 日の内合の後は明けの明星として日の出前に見えています。4 月 23 日および 6 月 20 日の早朝に火星，月と並びます。5 月 2 日には最大光輝で－4.5 等，5 月 30 日に西方最大離角となります。

火星

日の出前の空で，しかも太陽からの離角が小さいので見えにくいでしょう。

木星

天の川の東岸，やぎ座にいますから，明け方でないと見られません。

土星

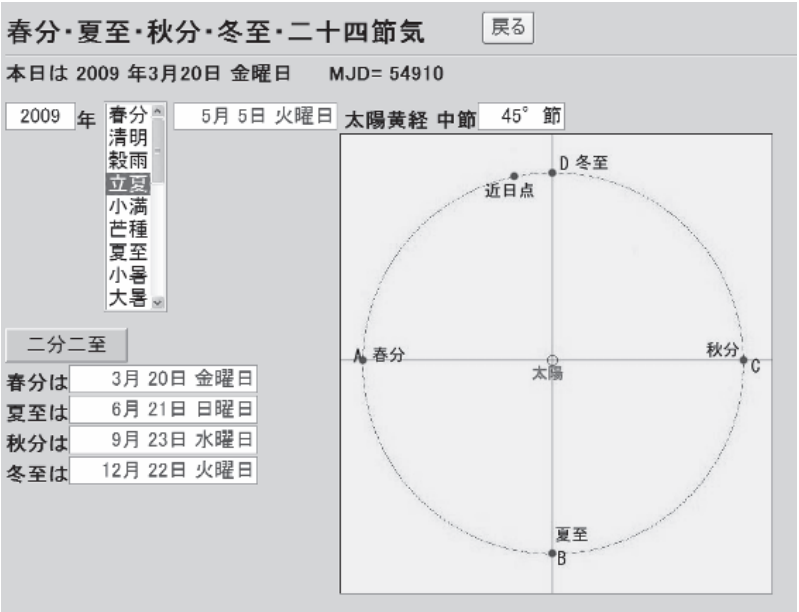
レグルスとスピカの間にというより南天で最も明るい星で，終夜見られます。現在，環は細くて見えにくいです。

二十四節気

カレンダーに記されている清明や穀雨などは二十四節気といわれるものでほぼ 15 日ごとにやってきます。地球は下図において反時計回りに太陽の周りを回っています。春分時の位置が A 点として，A 点・太陽・地球でなす角度を黄経といい，それが 15 の倍数になる瞬間を含む日に二十四節気が割り当てられています。

地球の運動は等速円運動ではないので，二十四節気の日付は必ずしも 15 日間隔ではないし，また年によって多少変わります。それらの日付は各種暦や『理科年表』からわかりますが，インターネットの中には任意の年について求められるサイトが多数あります。下図は筆者のページです。

http://www.kcg.ac.jp/kcg/sakka/koyomi/shunbun.htm



左上のテキストボックスに年を入力して二分二至のボタンをクリックするとる二分二至の日付が表示され,また年の左にあるプルダウンメニューから二十四節気を選ぶとそれに当たる日付が表示されます。来年の春分（黄経＝0 度）の日は 3 月 21 日で，また秋分（黄経＝180 度）の日はこの数十年 9 月 23 日でしたが 2012 年には 22 日になります。入梅は二十四節気ではありませんが，黄経が 80 度になる瞬間を含む日で，必ずしも梅雨入りの日ではありません。なお八十八夜とは立春から数えての日数です。夏至（黄経＝90 度）の日に太陽の南中高度は最も高くなりますが，日の出が最も早い日は夏至の約 10 日前で，日の入りが最も遅い日は約 10 日後です。

母神の嘆き---おとめ座物語

かつて，まだ神々と人々が一緒に暮らしていたころの話です。この世のすべての穀物や果実の生育，収穫はデーメテル(別名ケレス）という女神がつかさどっていました。彼女にはペルセポネ(別名プロセルピナ）という愛娘がいました。ある日ペルセポネが仲間のニンフ(妖精）と一緒に花摘みをしていたところ，いきなり大地が裂けてそこから黒い 4 頭だての馬車に乗った死の国の神ハデス が現れ，あっという間にペルセポネをさらっていきました。ペルセポネは地下の死の国のお妃にされてしまったのです。娘を失ったデーメテルは悲しみのあまり谷間の洞穴に閉じこもってしまい，誰とも会わなくなりました。

さあ大変，大地は荒れて，草木は育たず，穀物は実らず，生きとし生けるもの飢えに苦しみました。人々は，女神の苦しみを取り除くため，何とかペルセポネを地上に返してもらうよう，大神ゼウスに訴えました。ゼウスは使者としてヘルメスを死の国へ派遣しますが，ハデスはなかなか命令には従いません。ヘルメスも手ぶらで帰るわけにもいかず，辛抱強く交渉した結果，何とか合意が成立しました。

ペルセポネは死の国のざくろを 4 粒食べたので, 1 年のうち 4 ケ月は地下の自分の国で暮らすことという条件で，ハデスはしぶしぶ妻を返すことを認めました。ペルセポネが地上に戻って来ると，デーメテルは喜んで洞穴から飛び出して来ます。すると大地は蘇り，草木はすくすくと育ち，鳥は伴侶を求めて歌います。春が来たのです。ところが 8 ケ月後にはペルセポネは地下の国へ行ってしまうのでデーメテルはまた洞穴に閉じこもってしまい，この世は 4 ケ月間冬になってしまうのです。

ハデスとはプルートの別名で実はゼウスやデーメテルと兄弟の間柄です。つまりペルセポネは叔父（伯父？）に略奪されたことになります。名前か

らして清楚な物語を期待していた読者には申し訳ないけど，ギリシア神話にはこのようなドロドロした場面がたくさん出てきます。この物語を題材にした絵画は多数ありますが，レイトン（1830-1896）の『ペルセポネの帰還』は最も有名なものでしょう。

地下の国から戻ってきたペルセポネ（右下）を迎えるデーメテル（左上）中央の男性はヘルメス
http://www.h6.dion.ne.jp/~em-em/index.html

おとめ座は左手に豊作の象徴である麦の穂を持った女神の姿として描かれています。この女神は母デーメテルとも娘ペルセポネとも言われています。母親なのにおとめとはおかしいですが，まぁ，あまり気にせずに。麦秋のころ麦の穂先に当たるところに青く輝く１等星スピカはギリシアのみならずエジプトでもバビロンでもインドでも女神を表す星とされてきました。

北斗七星，アークツルス（うしかい座），スピカを結ぶ春の大曲線としし座に囲まれた天域は明るい星がほとんどなく，ぽっかり大穴が空いたようです。ここには全く星がないのか？それとも巨大な暗黒星雲に隠されているのか？実はこの辺りは天の川から最も遠く本当に星が少ないのです。その代わり銀河系外天体は多数見ることができます。特におとめ座の北部，しし座のβ星（デネボラ）とおとめ座のε星の間には無数の銀河がひしめき合っていますが，これは見かけではなく実際に多数の銀河が集団をなしている姿なのです。数百個の銀河集団は銀河団と言われ，この領域の銀河団は「おとめ座銀河団」と呼ばれています。おとめ座銀河団は数千個の銀河の大集団で，約6000万光年の彼方にあります。星が集まって銀河を作り，銀河の集団は銀河団を形成し，その銀河団が集まって宇宙を構成している，この星の少ない天域は大宇宙が眺められる貴重な窓なのです。